



# へのへの

## 軸原一男回顧展

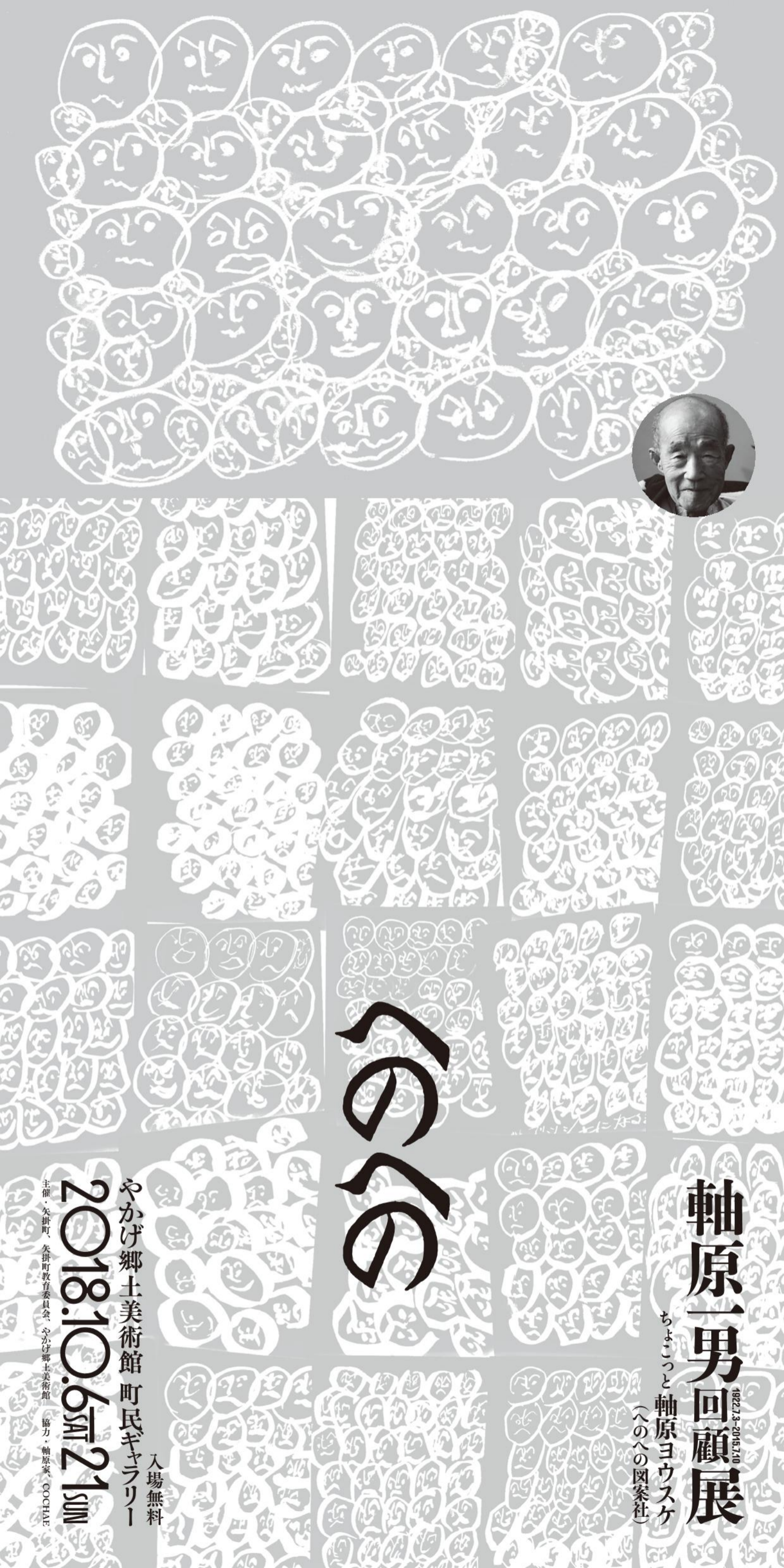
1922.3-2016.7.10  
ちよここと軸原ヨウスケ  
(へのへの図案社)

入場無料

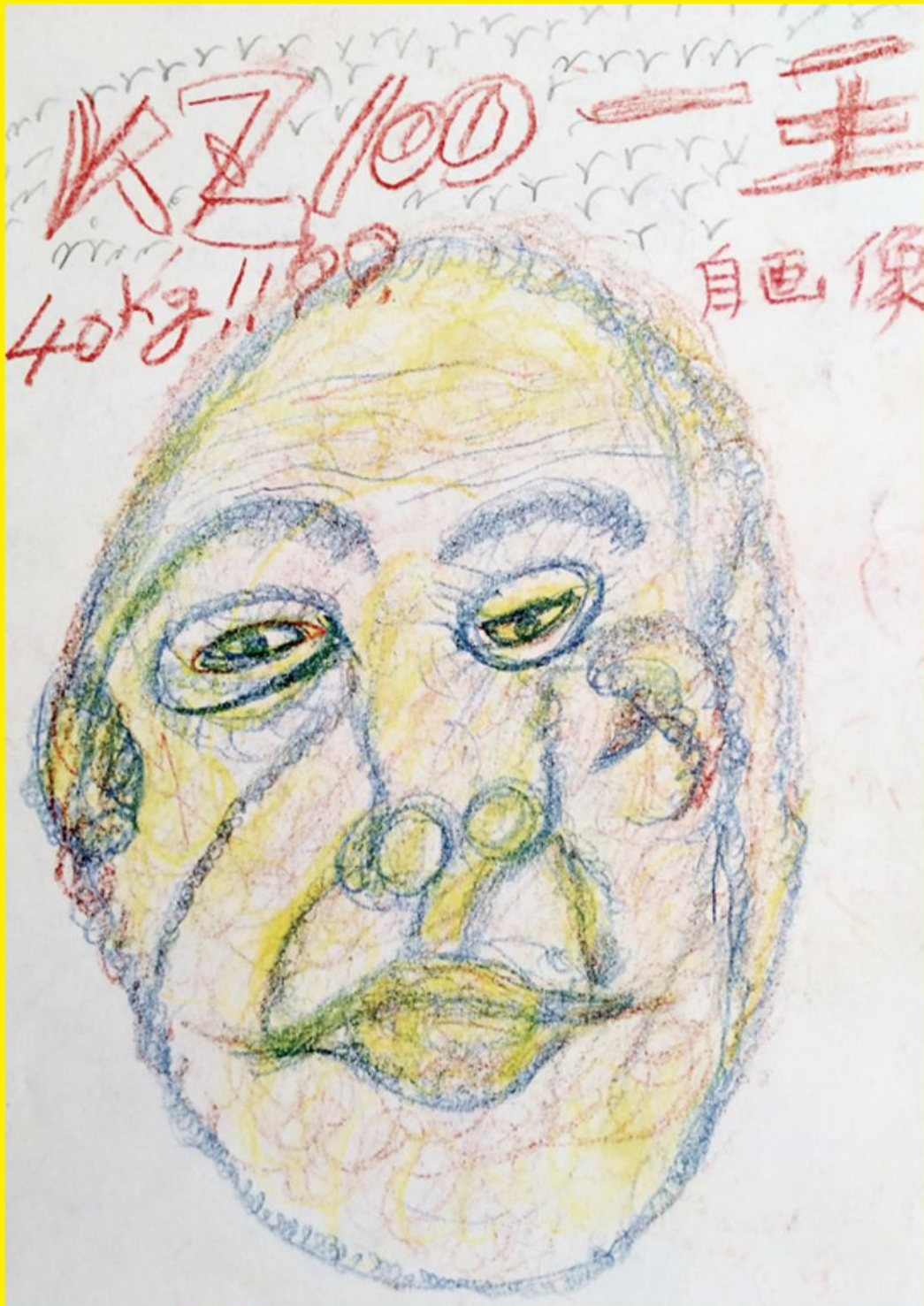
やかげ郷土美術館町民ギャラリー

2018.10.6 SAT 21 SUN

主催・矢掛町、矢掛町教育委員会、やかげ郷土美術館 協力・軸原家、COCHAE



エデカクこと  
じでかくこと  
モチデカクコト  
屁でかくこと  
有難う(原文) 軸原一男

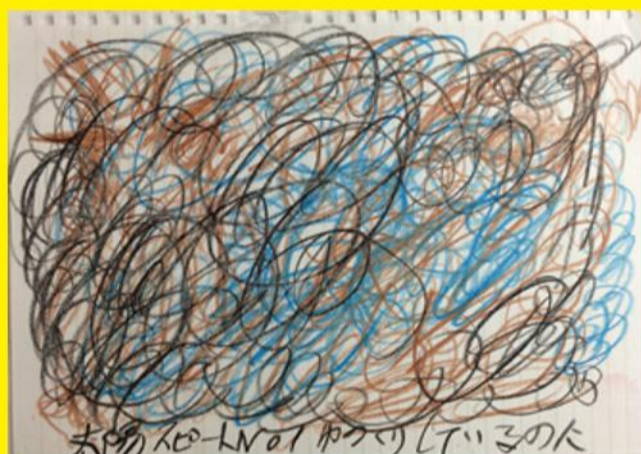


軸原一男 (1922-2015)

山口県で出生。その後、岡山県で育つ。70歳を過ぎて彫り始めた彫刻、90歳を過ぎて描き始めた絵や迷言を二筆大公開入院中、唐突に絵を描きたいと言い出し、描いた絵は5000点以上。誰にでも表現はできるし、表現していいのだ、という当然のようについて大切なことを雑拙な絵で伝えた。「上手い下手は関係ねえ、好きなように描きゃあええんじや!」

軸原ヨウスケ (1978-)

岡山県出身。武田美貴とのデザインユニットCOCHAE(トチャエ)として、「きびたん」(山方永寿堂)や「吹屋の紅たるま」(佐藤商店)等、岡山県内商品のパッケージデザインをはじめ、全国の美術館や雑誌社等の商品デザイン、展示企画に至るまで幅広く活躍している。昨年立ち上げた「へのの図案社」では、祖父・軸原一男の「へのの」を受け継いでほしいという遺志を継ぎ、単身でも活動中。



軸原一男は、老人ホームへの入居を機に、90歳を過ぎてから市販のイラストカット集等を手本に絵を描き始めました。ベッドの上で色鉛筆やペンを使い、手本から逸脱したニクな作風で1日20枚ほどの早さで描き続けました。孫が絵をツイッターに投稿したことで、にわか注目を集めた「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015」(新潟県)や、鞆の津ミュージアム(福山市)で紹介されています。岡山県内で初の発表となる本展覧会では、「へのへのもへじ」風の顔が並んだ代表作を中心に、93歳で亡くなるまでの2年余りで制作した絵と、70代から制作していた木彫りより厳選した優作約2000点を、注目すべきデザイナーとなった孫・軸原ヨウスケこと「へのの図案社」によるデザインで一堂に展観します。

2018.10.6 SAT 21 SUN

ワークショップ  
「へののを習得しよう」  
10月7日(日) 14時  
場所 やかげ郷土美術館 研修室  
講師 軸原ヨウスケへのの図案社  
対象 小学1年生以上(一般)  
参加費:100円  
定員:20名  
※要電話申込 やかげ郷土美術館  
0866-82-2110  
受付開始 9月15日(土) 10時



美術館FB

